

平成27年度

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価等報告書

西米良村教育委員会

# 報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定により、平成 27 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等について、報告書を提出する。

平成 28 年 9 月 12 日

西米良村教育委員会

委員長 黒 木 照 福

## 西米良村教育委員会の自己点検・評価シートについて

### 1. 自己点検・評価の考え方

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、教育委員会の権限に属する事務のすべてにおいて、平成20年度事業からその管理・執行状況について点検及び評価を行うこととなった。

西米良村教育委員会としては、これまでも本村の教育の発展のために種々の事業に着手し、その結果等を踏まえて改革に取り組んできたところである。

教育委員会などの行政機関が教育政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、施策を的確に遂行すると共に住民に対する説明責任を果たす上で重要であることから、西米良村教育委員会で実施している事業等の評価を踏まえ、教育委員会としての自己評価に対する考え方を記入することとしている。

### 2. 大項目について

地教行法に規定している点検・評価の対象となる教育委員会の権限に属する事務で、「1教育委員会の活動」、「2教育委員会が管理・執行する事務」、「3教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」の3項目に分類している。

### 3. 中項目、小項目について

#### (1) 教育委員会の活動

教育委員会の活動は、教育委員会の会議の運営改善、保護者や地域住民への情報発信等の状況を点検・評価するものとしている。

#### (2) 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行するとされている事務で、教育行政の運営に関する基本方針を定めること等を中項目に設定し、状況を点検・評価するものとしている。

#### (3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会が策定した西米良村教育基本方針及び重点施策に基づき、教育長が委任を受け、事務を推進していることを抜粋し、状況を点検・評価するものとしている。

### 4. 自己点検・評価シートについて

点検・評価シートは大項目ごとに次の3つのシートに分類して記載している。

シート その1 教育委員会の活動

シート その2 教育委員会が管理・執行する事務

シート その3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

### 5. 点検・評価について

点検・評価は、実現度をAからDの4段階とし、Aは「達成している(100%)」、Bは「ほぼ達成している(約80%)」、Cは「概ね達成している(約60%)」、Dは「達成していない(50%以下)」で評価を行うこととしている。

点検・評価項目にかかげた全ての教育行政施策が重要であることは言うまでもないが、規則や規程の制定、改廃等の項目によっては、その年度によって該当がないことがあるため、その場合は、項目の説明欄に該当がなかった旨を記載し評価をしないこととしている。

# 平成27年度 西米良村教育委員会評価委員審査報告書

平成27年度の教育委員会においては、関係事業が第5次長期総合計画、教育基本方針並びに重点施策に沿って、おおむね適切かつ効率的に計画・実施されていると評価される。

## 1 教育委員会の活動

教育委員会独自で熊本県産山村及び山江村を視察され、ICT教育の先進事例の状況を見聞されると共に、小中学校訪問を行い、児童生徒の授業や学校生活の実態等を肌で感じとっておられることは、評価できる。

## 2 教育委員会が管理執行する事務

- ・放課後子ども教室推進事業を充実されて、放課後の子どもの過ごし方を指導・支援されており、広範にわたる教室を企画運営し、大半の児童が教室に参加していることは評価したい。また、28年度より放課後の児童の安全で安心できる居場所の確保のために「西米良村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を制定して、放課後児童クラブを新設予定とのことであるが、関係者の尽力を大いに評価したい。
- ・平成27年度も教職員の異動に伴い、家族同伴での転入がなされた。これにより、教職員の子どもが、小学校に3名転入し、地元の児童生徒の学校生活に良い影響を与えているということであるが、人事に当たっての県への働きかけは、評価できる。
- ・新たに史跡1箇所と刀剣3振りが村の文化財に指定され、保存継承が進んでいくことは評価できる。今後とも、調査研究を行っていただき、文化財の発掘に尽力いただくとともに、現在取り組まれている西米良神楽の重要無形民俗文化財指定についても御尽力いただきたい。

## 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- ・「ふるさと西米良学」手引書に沿って、神楽体操、田植え、村内集落や施設での交流等の体験学習を実施され、児童生徒に教科書等を通しての「疑似体験」や「間接体験」を体験学習の中で直接体験させていることは評価できる。
- ・児童生徒の学力向上対策として、27年度は、中学校生徒全員を対象に民間学習塾講師による夏期講習を実施されており、また、新たな学力向上対策として、今後、児童生徒へのタブレット配布、そして、生徒へのテレビ回線を利用した専門業者による双方向授業を予定されているということであるが、学力向上対策の一つの試みとして評価できる。今後の成果に期待したい。併せて、研修等を積極的に実施され、教職員の資質の向上を図っていただきたい。
- ・「特色ある学校づくり」として「豊かな体験活動事業」により熊本県の小中学校との交流学习を行っているが、この事業により本村の児童生徒が他校の文化等の違いをつぶさに体験できることについては、評価できる。また、交流を通して、児童生徒の対人関係の状況も把握でき、今後の個別指導にも役立つと思える。
- ・「総合型スポーツクラブ」の発足により、各種スポーツ教室や文化講座が充実され、参加者も増加し、村民のスポーツへの関心が高まったことは、評価できる。毎年出場している県市町村対抗駅伝競走大会では、選手確保が困難な状況にも拘わらず、躍進賞に導いた関係者の努力は、大いに評価できる。
- ・「あさよむ村民運動」の展開により着々と運動の実績を上がっていること評価したい。読者層が固定化してきているということであるが、読書推進の啓発活動に力をいれていくということであるので、今後の活動の展開に期待したい。

平成27年度 西米良村教育委員会の自己点検・評価シート【その1】

大項目	中項目	小項目	評価	説明
1 教育委員会の活動	(1) 教育委員会の会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	A	・教育委員会会議規則では、会議は必要と認めるとき開催するとなっており、27年度は、定例会を年5回、臨時会を1回、開催した。
		② 教育委員会会議の運営上の工夫	A	・教育委員が学校の現状を把握するために、初回会議において、校長から学校経営ビジョンの説明を受け、さらに学校訪問のない中学校で教育委員会を開催した。
	(2) 教育委員会の会議の公開	会議等の公開、広報、公聴活動	A	・会議録等の公開請求はなかった。村のホームページで教育委員会の自己点検・評価の公表を行った。 ・総合教育会議の議事録及び教育大綱等について村ホームページにて公開した。
	(3) 教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	A	・教育委員会に課長、必要に応じて担当が出席し、教育委員会と事務局が情報を共有し、施策に反映できるように努めた。
	(4) 教育委員会と村長部局との連携	教育委員会と村長との意見交換会の実施	A	・西米良村総合教育会議を開催し、教育委員会の制度と総合教育会議設置要綱の制定について再確認し、西米良村の教育大綱について村長と認識の共有を図った。
	(5) 教育委員の自己研鑽	研修会への参加状況	A	・宮崎県、宮崎市町村教育委員会連合会、児湯地方教育委員会連絡協議会が主催する研修会に参加した。また、タブレット等情報教育機器導入に向け熊本県の産山村及び山江村で開催されたICT教育に係る研究発表会に視察研修を兼ねて参加した。
	(6) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備	① 学校訪問	A	・村所小学校訪問の折に電子黒板等ICT機器を活用した授業を参観しその状況を確認するとともに、校長や教諭との意見交換を行ったほか、教育委員会を西米良中学校で開催し、併せて各学年の授業の様子を参観した。
② 所管施設の訪問		A	・菊池記念館、歴史民俗資料館を訪問し、展示物及び施設の現状を確認した。	

平成27年度 西米良村教育委員会の自己点検・評価シート【その2】

大項目	中項目	評価	説明
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	A	・教育基本方針を「地域に根ざした教育・文化の村づくり（継承・連帯・創新）」を定め、「あいさつ・読書・ふるさとの知識・元気日本一」を目指す子ども像として目標を設定し、これに基づく6項目の重点施策を掲げ、それぞれに単位施策とその具体的な取組みを明記して定めている。
	(2) 教育委員会規則及び規程の制定、改廃	A	・「西米良村教育委員会事務委任規則」、「西米良村立学校管理規則」の一部改正を行った。
	(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	A	・「西米良村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」及び前年度決算や新年度予算の原案の決定について審議を行った。 ・児童クラブ創設関連、ICT整備に関する予算を要求し3月議会で議決いただいた。
	(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、または、廃止すること	/	事例なし
	(5) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	A	・村長部局への出向4名、村長部局からの出向4名の異動を行った。
	(6) 県費負担に係る校長の人事の内申に関する事	/	・平成28年4月の人事異動では校長の転出入はなかった（事例なし）。
	(7) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関する事	A	・平成28年4月の人事異動に際し、転出者小学校1名、中学校5名、転入者小学校1名、中学校6名の異動の内申を行った。 転入者のうち3名が家族同伴で赴任し、小学校に児童3名の転入があった。 ・要求した学年の児童を帯同する教員の確保ができなかった。29年度に小学校で複式学級の可能性がある。
	(8) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事	A	・協議の上で各委員の選任を行った。 学校評価委員、放課後子どもプラン運営委員、生涯学習カレンダー検討委員、就学相談委員、スポーツ推進委員、通学路安全推進会議委員
	(9) 教科用図書の採択の決定に関する事	A	・中学校教科書の採択を行った。
	(10) 通学区域を設定し、又は変更すること	/	事例なし
	(11) 文化財の指定及び指定の解除	A	・新たに大円墓所1箇所と刀剣3振（菊池家寄贈）の文化財指定についての答申を受け、これに基づき平成27年7月に文化財指定を行った。 ・文化財の現況調査を行い、維持保全の必要性について調査した。 ・西米良神楽の国指定に向けて研究者に調査を委託し、狭上地区、村所地区で行われた神楽の調査を行った。
	(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事	/	事例なし
	(13) その他重要又は異例と認められる事項	/	事例なし

平成27年度 西米良村教育委員会の自己点検・評価シート【その3-1】

大項目	中項目	小項目	評価	説明	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	西米良村だからできる豊かな自然環境・社会環境や人間の感性を活かした教育の創造	学校・家庭・地域が連携した教育の推進	①	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと西米良学」の手引書を基に郷土学習を実施した。</li> <li>1 体験学習の実践：郷土の史跡等の学習や地域住民との交流を実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校】 民話語り、神楽体操、特別養護老人ホーム「天包荘」訪問</li> <li>【中学校】 越野尾地区（児原稲荷神社）訪問、特別養護老人ホーム「天包荘」訪問</li> </ul> </li> <li>2 豊かな体験活動推進事業の実施の支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校】 小豆播種・収穫、田植え・稲刈り、餅つき、茶摘み</li> <li>【中学校】 米良太鼓、神楽、村特産品応援プロジェクト</li> </ul> </li> </ul>
		②	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の教育力の向上を支援するために家庭教育に関する学習機会や情報の提供、子育てに対する不安や悩みなどを気軽に相談できる体制整備に努めた。</li> <li>県特別支援コーディネーターの活用による就学相談実施</li> <li>家庭教育学級講演会の実施 2回：延べ87参加 (講師：るびなす支援学校 重黒木俊朗指導教諭/Brain-Mental Laboratory こころの相談室 足立明彦代表)</li> <li>神楽体操、米良太鼓、語り部等地域人材を活用した学習機会を支援</li> <li>学校支援地域本部事業：学校と地域の橋渡し役として、地域コーディネーターを配置し、地域の住民が学校支援ボランティアとして活動しやすい体制づくりを支援した。これにより高齢者等ボランティアの知識、経験を生かす場の拡充、教師が授業に専念することにより、子どもと向合う時間が増えた。</li> <li>放課後子ども教室推進事業：子ども達が放課後、自主的に学ぶ場や安心・安全な活動拠点を確保することを目的として実施。文化系事業の「すくすくスクール1教室・4事業」と、体育系事業の「メラスポチャレンジクラブ（3教室）」があり、全体で167回開催、延べ3,730名の参加があった。</li> </ul>	
		①	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>村雇用教職員（中学校1名）による授業の補完及び個に応じた教育指導の充実を図る。</li> <li>A L Tによる英語活動及び国際理解教育の充実。</li> <li>現役東大生を講師に迎え、中学生を対象に学力向上夏季セミナーを実施(前期:7/29～8/3 後期:8/17～8/22)</li> <li>県学力テストの結果（小学校5年生/中学校2年生 テスト科目：国語/社会/算数(数学)/理科/英語）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校】 理科Bが県平均を下回っているが、その他の科目は全て県平均を上回っている。</li> <li>【中学校】 数学B、理科Aで県平均を下回っているが、その他の科目は全て県平均を上回っている。</li> </ul> </li> <li>全国学力テストの結果（小学校6年生/中学校3年生 テスト科目：国語/算数(数学)/理科）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校】 国語Aを除き、全国平均を下回っている。</li> <li>【中学校】 全ての科目で全国平均を上回っている。</li> </ul> </li> <li>C R T学力検査の結果                     <ul style="list-style-type: none"> <li>【小学校】 全ての科目で全国平均を上回っている（国語、算数、理科、社会）</li> <li>【中学校】 全ての科目で全国平均を上回っている（国語、数学、理科、社会、英語）</li> </ul> </li> <li>平均すると県、全国水準の学力を維持しているが、学力の2極化傾向、個人差があることが課題である。</li> </ul>	
		②	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>I C T教育の推進に積極的に取り組み、小中学校の情報教育環境の充実を図っているが、機器を効果的に活用できるよう研修の充実が必要である。</li> <li>デジタル教科書を小学校は2教科（国語・算数）、中学校は4教科（国語・数学・理科・英語）整備し、更なる環境の充実には、学校に対しては、情報機器を積極的に活用した授業の工夫、改善をお願いし、教職員の努力により学力テスト等の結果を通して学力の向上が窺われた。</li> <li>子ども読書週間に「読み聞かせ」を実施し、児童生徒の読書意欲を喚起した。また、毎月、小学校と中学校（平成26年度から）をあさよむ号が巡回した。</li> </ul>	
		③	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校が連携を深めるために、合同の教育研究会を設立し、研究テーマを統一し、合同で授業研究会を実施している。</li> <li>小中学校教職員で構成する村教育研究会の運営支援（補助）や村雇用の講師の配置のほか、小学校教諭に中学校の体育を、また中学校教諭に小学校の数学・理科を兼務する発令を行い、連携をより一層推進するための環境整備に努めた。</li> </ul>	
		④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>村教育研究会への支援 小中学校全職員で組織している「教育研究会」へ運営支援（補助）を行い、児童生徒の学習指導法等の自主的な研究を推進した。平成27年度は研究主題を「『知』・『徳』・『体』バランスのとれた西米良っ子の育成～9年間を見通した教育活動を通して～」として3つの研究部会を設置し、「知育部会」では「個に応じた確かな学力の育成」をテーマにI C Tの効果的活用に関する指導内容、技術の共有や学力調査等の分析、対策などを、「徳育部会」では「自主性・創造力の育成」をテーマに児童・生徒会活動や当番活動・委員会活動の充実等を、「体育部会」では「体力向上の日常化」をテーマに1校1運動の推進や食育の充実等をそれぞれ重点実践内容としながら共同研究を実施した。</li> </ul>	
	③	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の充実 支援を必要とする児童生徒に対して、その1人1人の教育ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、学校、保護者、県特別支援コーディネーター、保育所がタイアップした教育支援システムの中で適切な指導がなされた。</li> <li>特別支援学級を小学校に設置し、指導体制が整備されている。</li> </ul>		
	たくましく心豊かな子どもの育成	①	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>菊池のこころの教育の充実 あいさつ運動の実施：あいさつ日本一を目指して積極的なあいさつ運動に取り組み、元気なあいさつや自ら進んであいさつができています。</li> <li>菊池のこころの実践：「礼節のこころ 粘るこころ 励むこころ 尽くすこころ」をあらゆる教育活動に位置づけ実践化が図られている。しかし、学校内と学校外の実践に差異があるのが気がかりである。</li> </ul>	
		②	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上の推進 【小学校】 自分の体力の状態を知り、体を積極的に動かす健康な子どもを目指して、体力向上に取り組んでいる。体力テストの結果では2・6年生の男子と4年生の女子が県平均と比較して全種目において上回っており、宮崎県の課題である「握力」と「ボール投げ」については、他の種目に比べ、平均を下回っている学年が男女とも多い状況にある。 個別競技では、剣道部がスポーツ少年団地区大会優勝、中央大会準優勝、新田原少年剣道大会優勝をはじめ、各種大会で上位に入賞するなど素晴らしい成績を収めている。</li> <li>【中学校】 体力テストの結果では、県平均と比較して2・3年生の男女は総体的に高い水準にあるが、1年生の男女で県の課題である「握力」、「ボール投げ」を含め平均を下回っている。中体連大会については、剣道が男子個人・女子個人の部で各1名、陸上競技が女子100mと走り幅とびで1名が県大会に進んだ。また秋季大会では、剣道が男子団体及び男子個人で県大会に出場したほか、スポーツ少年団大会では男女混合と女子の部でブロック大会で優勝しており、今後、ますますの競技力向上が期待される。</li> </ul>	
		③	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある学校づくり ○豊かな体験活動事業の実施 【小学校】 熊本県菊池市立隈府小学校との交流学习を実施 【中学校】 熊本県湯前町立湯前中学校との合同授業を中心とした交流学习を実施 ○特色ある学校づくり補助金交付 神楽体操、米良太鼓、語り部等地域人材を活用した学習機会の支援や社会福祉施設との交流を小中学校ともに実施し、人間関係構築力、コミュニケーション能力の向上を目指している。</li> </ul>	

平成27年度 西米良村教育委員会の自己点検・評価シート【その3-2】

大項目	中項目	小項目	評価	説明
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	(5) スポーツ・文化活動の推進	① 総合型スポーツ推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代を超え、初心者から上級者までそれぞれのレベルに合わせ気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブ「メラスポチャレンジクラブ」は、平成25年度2月の創設以来、年々会員数を伸ばし、平成27年度は224名となっており、生涯学習講座やスポーツ教室など様々な取り組みが実施された。</li> <li>・平成27年度より西米良村体育協会と一体的運営を行うこととし、より効率的で効果的な生涯スポーツ活動の推進等を図った。</li> <li>・参加する村民に偏りが見られ、会員獲得に新たな取り組みが求められる。</li> </ul>
		② イベントの充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村民のスポーツ・健康志向へのニーズに応えるため体育協会を中心として、各種のスポーツイベントを企画、運営し、生涯スポーツの振興を図った。</li> <li>・村民ミニバレーボール大会では村民241名が参加した。</li> <li>・村民合同運動会「第20回メラリンピック」においては村民の過半数を超える645名が参加した。</li> <li>・第5回市町村対抗駅伝競走大会では、前年記録を5分31秒短縮し躍進賞を受賞した。</li> <li>・村民のニーズや高齢化に対応したイベントの実施に工夫改善の必要がある。</li> </ul>
		③ 文化財活動の推進と保護	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の文化に対する認識を深めるため、学習機会の拡充や保護顕彰を目的に以下の事業に取り組んでいる。</li> <li>○ 神楽保存会運営補助金交付 ○ 村文化財刀剣の展示・管理（研磨等）</li> <li>○ 小学生への神楽体操、中学生への米良太鼓の指導</li> <li>○ 民話伝承を受け継ぐ語り部学習</li> <li>・菊池記念館の保存文書を調査し、古文書の解説・解説及び編集を行った。</li> <li>・重要無形民俗文化財の国指定に向け専門家による西米良神楽の調査を実施した。</li> </ul>
	(6) 魅力ある生涯学習推進体制の整備	① 自治公民館活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館長会を年4回開催し、生涯学習大会・自治公民館大会、村民合同運動会、スポーツフェスタ、ミニバレー大会、米良のあさよむ村民運動等各種イベントの推進についての協力を依頼した。</li> <li>・自治公民館の活動を推進するため運営支援（補助金）を行っている。</li> <li>・「第11回にしめらイキイキ祭」（生涯学習大会・公民館大会）を開催し、村民480名が参加した。公民館活動の事例発表では、板谷自治公民館が平成17年の台風災害による復興活動の一環として取り組んだ「治山・桜もみじの花の森づくり」や「ホテルの里づくり」などの活動について発表がなされたほか、青山佳世氏による「まちむらは日本の宝！みんなで元気」と題した講演等を実施し、来場者アンケートの結果、参加者の殆どから好評を得た。</li> </ul>
		② あさよむ村民運動	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度より毎月23日を「あさよむの日」と定め「米良のあさよむ村民運動」を推進している。</li> <li>・移動図書館車「あさよむ号」の活用やその他の普及活動により、平成27年度の図書の利用は3,176冊となっているが、愛読者が固定化しているため、読書推進の啓発活動に力を入れたい。</li> <li>・2月に中学生による実行委員が企画運営する「西米良村図書まつり米良のあさよむフェスタ」を開催し、読み聞かせや葉脈のしおりづくりなど盛りだくさんの催しに約160名が参加し盛況だった。</li> <li>・夏休みに「あさよむツアー」を実施し宮崎県警本部、宮崎市立佐土原図書館の職場見学等を行っている（平成27年度参加者小学生17名）。</li> </ul>
		③ 社会教育団体の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>【社会教育団体】</li> <li>・青年会、地域婦人会に運営補助金を交付し活動を支援した。活動は以下のとおりである。</li> <li>○ 青年会（会員数25名）</li> <li>① 自主事業：やまびこロードレース大会（参加者122名）を実施。</li> <li>② 事業参加：山菜祭り・ふたば園夏祭り・メラリンピック・天包荘納涼祭・イキイキ祭等</li> <li>○ 地域婦人会（会員数144名）</li> <li>① 自主事業：婦人大会・婦人ミニバレー大会・郷土料理伝承（中学生）・福祉バザー</li> <li>② 事業参加：県婦人体育大会・市郡ミニバレー大会・あさよむフェスタ・災害ボランティア研修会</li> <li>【その他の団体】</li> <li>自治公民館、子ども会、スポーツ少年団、体育協会、PTA、神楽保存会に対し、組織の健全運営や活動の活性化のための支援（補助金等）を行った。</li> </ul>
	(7) 人間尊重の村づくり	① 人権啓発の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宮崎県人権教育基本方針」及び「宮崎県人権教育・啓発推進方針」に基づいて、学校及び地域社会において人権尊重の教育をより深く推進するとともに、広い人類愛に裏づけられた真に差別をなくしていく意志と実践力とをもった人間の育成を目指して、人権教育を推進している。</li> <li>・学校教育においては、人権教育全体計画に基づいて計画的に実施できた。</li> <li>・社会教育においては、家庭教育学級で人権講話を行った他、夏期休業中、地域住民、幼児、児童を対象とした人権問題をテーマにしたふれあい映画祭を実施した。</li> <li>・児童の人間関係をめぐる問題が顕在化したので、学校においては、常に危機意識をもって、人間関係の調整を進めていく必要がある。</li> </ul>

総合評価

学校教育、社会教育等全般的に本村の教育基本方針に基づいた施策が計画的に実施でき、一定の成果を収めている。

学校教育においては、少人数指導、小中連携による基礎学力の定着を目指しており、各学年、平均で見ると安定した学力を維持しているが、一方で個人差が目立つ学年もあり、個に応じた指導のさらなる強化が求められる。学習発表会での劇・ダンス等や各種イベント等で堂々とした発表が見られ、音声による表現力の充実が感じられる。またスポーツ面においては、剣道競技で小中学生とも各種大会で入賞し、地域指導者や保護者の熱心な取り組みもあり、全体的な競技力の向上が見られ、今後のさらなる活躍が期待される。

社会教育では、「あさよむ村民運動」の推進により、図書利用者が定着し、貸出数も増加傾向にある。さらに生涯学習推進大会（にしめらイキイキ祭）は、自治公民館をはじめ、小・中学生や青年会の発表、講演等が好評であり、多数の村民の参加があった。

スポーツ・文化部門では、平成25年度より取り組んでいる「総合型地域スポーツクラブ（メラスポチャレンジクラブ）」は会員数も年々増加しており、地域スポーツや文化活動の推進による生涯現役・元気村づくりの実現に貢献した。また、菊池記念館に所蔵されていた古文書の解説・解説・編集や、国の重要無形民俗文化財指定に向けた調査研究等も実施し、村の歴史・文化の保護・活用等に向けた取り組みも行った。

※ 総合評価は「教育委員会」による自己評価